

# 第3期中期目標期間における重点的取組 **【戦略2】**

## 第3期中期目標期間における重点的取組に係るビジョン

徳島大学は、「自主と自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する。」ことを使命としている。第3期中期目標期間においては、「徳島の地（知）の拠点」として、地方創生及びグローバル化の視点から、産業界や行政さらには住民の期待に応え、地域振興の核となる「人材」教育や研究など、地域貢献に重点をおいた取組みを進めるとともに、本学の強みや特色のある分野では、我が国（あるいは世界）をリードする教育研究を重点的に推進することとし、資源の再配分による全学的な組織改革を基軸として、教育研究機能の強化を図る。

**地域のニーズを踏まえた人材育成については、医歯薬学部に加えて、新たに設置した生物資源産業学部や理工学部における分野連携教育によりイノベーションの創出ができる人材、並びに世界で活躍するグローバルリーダー及びグローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材を育成するとともに、大学院の新設・改組等による高度専門職業人を養成する。**

また、本学の「理工系」、「生命系」の強みを活かし、特色である「酵素」、「LED」、「生物資源」領域などにおいて、先端酵素学研究所やポストLEDフォトリソグラフィ研究所の創設などによる研究拠点の形成や医歯薬学研究所、社会産業理工学研究所を中心に異分野融合型の最先端の特色ある研究の強化を図る。また、大学発イノベーションの創出による大学発ベンチャー企業の実現等により、大学の収益を上げる。

さらに、これら教育研究機能の充実強化を通じ、地域自治体や産業界等との連携を深めるとともに、徳島県が挙県一致で取り組む「V5東京『とくしま帰郷』総合戦略」の主要プレイヤーとして、「県内若者の地元定着」や「雇用の創出」などに大きな役割を果たし、徳島の地方創生に貢献する。

## 戦略2： 徳島大学の強み・特色である「生命系」、「理工系」の分野横断教育プログラム等の推進による、我が国（あるいは世界）をリードする高度専門職業人の育成

【評価指標】 > 受講者自身による達成度評価 > 大学院卒業者のうち外科系診療科を選択した就職者総数 > 大学院卒業者のうち就職先の評価 > 国家試験合格率

**取組4**

高度医師・歯科医師の育成のための卒前卒後一貫トレーニングプログラム構築

> 未固定遺体とシミュレータを用いた新たな実践型内視鏡下低侵襲手術トレーニングプログラムの構築

**取組5**

国際的に優位な医薬品産業基盤の創出及び人材育成プログラム構築

> ITツールの機能・理化学的性質の薬学的解析に基づく革新的薬物送達システム(DDS)の創製を通じた実践型人材育成事業

**概要**

- 西日本唯一となる未固定遺体を用いたサージカルトレーニング専用施設クリニカルアナトミーラボおよび生豚に対応したメディカルトレーニングラボを拠点としたサージカルトレーニングと、スキルスラボでのシミュレータを用いたドライラボトレーニングを連携させて、本学の強みである外科系分野での内視鏡下低侵襲手術の実践・開発を担う医師・歯科医師を先導的に育成する。
- 手術方法やデバイスの改良など新規医療技術の研究・開発を担う人材を育成する。

**課題**

- 早期機能回復や社会復帰ならびに健康寿命の延長を重視した低侵襲手術が外科手術の主流となりつつある一方で、その合併症が社会問題化
- 内視鏡下低侵襲手術は術野が限られ手技が高度化しており、実地トレーニングの機会が少ないため、局所解剖を完全に再現したトレーニング環境が必要
- 内視鏡下手術を想定したドライラボトレーニング等の準備教育がプログラム化されていない
- 複雑な解剖部位での低侵襲手術は、継続的な術式改良やデバイス開発が必要

**取組**

組織弾力性や血管・神経損傷の面で生体に最も近い未固定遺体に対応し、CT/MRI撮像が可能なクリニカルアナトミーラボ（平成26年度開設）、生豚に対応したメディカルトレーニングラボ（平成28年度開設）とドライラボトレーニングを行うスキルスラボを連携し、内視鏡下低侵襲手術等に焦点を当てた卒前卒後一貫トレーニングプログラムを構築することで医学部、大学院、関連病院および地域医療機関の教育研究拠点を構築する。

- 専任教員、技術職員の配置による人材養成プログラムの構築・実施、海外先進施設の視察・トレーニングプログラム参加
- シミュレーショントレーナーや高機能シミュレータ等を用いた準備教育としてのドライラボトレーニングプログラム、未固定遺体や生豚を用いた実践型トレーニングプログラムの構築
- リメディアル教育としてのインテンシブプログラムの構築
- 技術認定制度の構築



**成果**

社会生活への早期復帰を図り、健康長寿社会を実現する医療を確立

- 安心・安全な内視鏡低侵襲治療を実践できる人材の育成
- 複雑な解剖領域における先進的医療技術の研究開発
- 開かれた生涯教育の場の提供

**課題**

素晴らしい製品があっても、輸送手段なくして、製品の価値は発揮されない。これは薬物として、同じである。薬物の適時適切な組織への運搬(DDS)は薬物療法における要の一つであり、産学をあげたオープンイノベーション化が求められている。

**概要**

薬学的観点からのエキソソーム(細胞間シグナルを担う内因性のナノサイズ小胞であり、これに薬物を封入すれば革新的DDS(薬物の体内動態を操ることにより患者QOL改善につながる)となり操薬が実現)の機能解明と物性解析を通じ革新的DDS創製を目指した研究の実践と製造拠点形成を通じ、操薬に精通した次世代の操薬人の育成を行い、国際的に優位な医薬品産業基盤の創出と人材の育成を果たす。

**取組**

6年制・大学院という全薬学教育課程一体となった操薬教育システムとして革新的DDS開発実践型「操薬人育成事業」の推進を行う。医薬品化という学際的・分野横断的な研究活動に参加する中で、そのプロセスを理解し、体内動態制御(操薬)に精通した、次世代の医療を担う操薬人を育成する。

**成果**

- グローバル化に適応可能な高度専門薬剤師の養成
- 地域のかかりつけ薬局薬剤師の養成や地域での個別化医療の推進に寄与できる人材養成